

高等学校日语教材

大学日语精读

大学日本語精読

上

三年级使用

横山邦治 主审

崔香兰 迟庆河 禹凤兰 胡立琴 齐小宁 编著



大连理工大学出版社

高等学校日语教材

大学日本語精読

大学日语精读

(上)

三年级使用

横山邦治

主审

崔香兰 迟庆河

禹凤兰

编著

胡立琴 齐小宁

大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

大学日语精读. 上 / 崔香兰等编著. —大连:大连理工大学出版社, 2007. 5
高等学校日语教材. 三年级使用
ISBN 978-7-5611-3563-1

I. 大… II. 崔… III. 日语—高等学校—教材 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2007)第 062231 号

大连理工大学出版社出版

地址:大连市软件园路 80 号 邮政编码:116023

发行:0411-84708842 传真:0411-84701466 邮购:0411-84703636

E-mail: dulp@ dulp. cn URL: http://www. dulp. cn

大连理工印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸:185mm×260mm 印张:13 字数:299 千字

印数:1~3000

2007 年 5 月第 1 版

2007 年 5 月第 1 次印刷

责任编辑:高颖

责任校对:向东 张凡

封面设计:苏儒光

ISBN 978-7-5611-3563-1

· 定 价:24.80 元

序

日本の大学では、教養科目としての外国語があり、一般に第一外国語と第二外国語を履修する事になっていて、第一外国語は中学から学習している英語が当てられ、第二外国語には、ドイツ語、フランス語などが当てられていた。ところが最近になって、中国語が外国語として履修させる大学が急増しているようである。

ところが日本人は元来島国で閉鎖的な国であったか、必ずしも外国語の習得が上手な国民ではないようで、中学時代から学習している英語でも、大学を卒業しているからと言って、英会話を自由にこなせる者は、極く少数であるのが実態である。まして中国語に於いておなじであろう。

中国の実情はどうであろうか、数年中国で日本語の教育に従事させてもらった体験から言えば、中国人の外国語学習能力は非常に高いと言うことが言えると思う。秦の始皇帝以来、歴代中原を中心とした世界国家であり続けた中国であるから、外国語履修に違和感を抱かないからであろうか。数年の学習だけで、日本語の会話が自在に出来るようになっているのが実情である。

さて、その学習で用いられるテキストであるが、これには大変多くの問題があるように思われる。大学で日本語を学ぶ以上、単に日本語が話せるようになるだけではなく、日本の文化などの実情をも理解すると言う、知識人としての常識も獲得して貰いたいものである。ところがその点で現在の中国の日本語学習テキストには、必ずしも十分な配慮がされていない物も見受けられるように思う。日本文化に対する理解の偏りやら、無

理解やらが間々見受けるのである。

この度、大連水産学院の日本語教授陣の精鋭が、その点にも十分配慮されたテキストを編纂された。このテキストが、単に日本語学習のテキストと言うだけでなく、日本文化理解に役立つ物として、世に迎えられる事を祈りたいと思う。

2007年1月5日

文学博士 横山邦治

目次

序

第一单元

第一課 子規的リアリズム（対談集）	1
第二課 海の限界にぶつかる文明	12
第三課 老いの選択	19
第四課 少年	28
第五課 清兵衛と瓢箪	39

第二单元

第六課 日本語に表現される日本人の特質	50
第七課 経済の基本問題	60
第八課 おみやげの文化	69
第九課 趣味としての読書	80
第十課 勝負事	90

第三单元

第十一課 日本語の年輪	101
第十二課 初島紀行	111
第十三課 神道と日本人	120
第十四課 日本の茶道	131
第十五課 キッチン	140

第四单元

第十六課 今を「ときめく」ひとたち	149
第十七課 『幸福論』退屈と興奮	157
第十八課 豊かな時間を求めて	165
第十九課 日本の近代詩と俳句	173
第二十課 坊ちゃん	183

参考书目	200
------	-----

第一单元

第一課 子規的リアリズム (対談集)

しばりょうたろう あかおとうし いのうえ
司馬遼太郎 赤尾兜子 井上ひさし

あらすじ

明治維新ごろいろいろな文章が出ている。それはみな自分の手織りでやってきた。文章日本語が成立したのは昭和三十年代以後のことで、泉鏡花の文章より夏目漱石のほうがロッキード問題が論じられ、可能性を持っている。しかし、子規の文章は夏目漱石の文章に遜色しないし、リアリズムに固執している。リアリズムの精神を実践した子規は最大の人である。そして敗戦までの間、本当のリアリズムの徒がいなかったから、太平洋戦争みたいなものをやるわけである。極端に言うと、公害問題がおこってしまうわけである。

司馬 散文の世界で、ちょっと僕の質問を聞いてもらいたいんだけどね。明治っていうのは文化大革命ですよ、全然、御破算になったんですから。文章も御破算になってますわね。だからまあ、山田美妙とか、二葉亭四迷とか出てくるんですけど。同時期に徳富蘇峰とか、北村透谷、山路愛山、まあそういうようないろんな文章——文体というほどでなくて——が出てくる。全部手織りなんですよ。それぞれが自分でつくって行ったわけです。大体、共通の文章日本語なら文章日本語が成立したのは、昭和三十年代以後だと、僕は思います。それまでは、新聞記者とか作家とか科学者とか、あるいは

正論家とか評論家とか、みんな寄ってたかってね、自前の手織りでやってきた。泉鏡花の文章と、夏目漱石の文章と、これは同時代の同じ日本語だろうかと思うぐらいでしょう。泉鏡花はいいが、しかしあの文章では、ロッキード問題は論じられない。(笑)しかし夏目漱石の文章は、恋愛でも外交でも論じられるシルポルタージュでもやれるという。いわば万能性をもっているという点であの時代にはきわめてめずらしい。そういう文章を手づくりで完成したところに、漱石の大きさの一つがあると思います。しかし子規もそうですね。子規も、みなが共用していい——いろんなことを表現できる——文章日本語をつくり上げたと思うんですが、そういう点を子規はあまり認めてもらっていない。

そこで、この話をちょっと向こうのほうに飛ばして言いますとね、漱石はあれだけの文章日本語の早い時期における完成という仕事をしたのに、その後なかなか続かないんですよ。続かなくて、昭和期になると——新感覚派の文章っていうのは、非常に晦渋ですね。あれはあれで手織りだし、手織り時代が続いているのです。また片岡鉄兵さんなんかが、新感覚派宣言文も書いているでしょう。見られた文章じゃないような悪文ですよ。つまり鉄兵さんの文章も鏡花と同じで万能の機能を持ってないわけで、つまりはせっかく漱石が完成させたものからまた後退したわけでしょう。というよりも、漱石がつくり上げた文章日本語が、まだ共通のものになってなかった、ということでもあると思います。非常に紆余曲折しつつ、大体明治で江戸期の文章が解体してから共通の文章日本語ができあがるのは、やはり百年かかるのかな。共通というのは、たれが書いても似た、たとえばここにおるだれが文章書いても、大体アメリカの大学の日本語科の試験問題になりうる、というような文章のことです。それができあがるのが、戦後か、もっと厳密に言えば昭和三十年代以後だと思うのですが、それについては、まあもっといろいろのことを喋らなきゃいけないので、まあそういうことかと、とりあえずしておいてください。

ところでその面での一完成者である子規がね、あれは漱石の文章よりも非常に漢語が少ないでしょう。

赤尾 そう、そう。

司馬 そして、漱石の文章よりもしなやかで、表現の万能性においては漱石の文章と遜色がない。蘇峰や愛山の文章では愚痴は書けないが、子規の文章では十分にそれが表現できる。たとえば、日常の、庭に陽がさして、鶏頭が…。

赤尾 …十四、五本もありぬべし。

司馬 そこはまあ、俳句につくっちゃうけども、その種のことはかれの散文でも十分に表現できるし、しているわけでしょう。

赤尾 書いています。

司馬 それからまた彼は、あまり政論なんかは論じなかったでしょうけども、それも論

じることができると思うんですね、あの文章で。ただ、語尾の文語形にわずかに固執しているけど、だれど文語意識は少なく、きわめて平易な文章をつくりあげた。まあ僕は子規の業績の一つは散文だと思うんですけどね。なぜそうかっていうと、ここから向こうは俳句になってくるんだけど…。

結局、彼はリアリズムに固執した人だから、リアリズムっていうのは、万人共有のものですからね。海のヒトデは星形をしているとか、これはもう確かにそうであるし、それから、石ころは多少丸いとか、トンボの羽根は透きとおっていると、ということとは万人共通のものですから、しぜんとその散文まで、わかりやすい散文ができあがってゆくという…リアリズムの精神というのを、評論でなく、実際に地でそれをやった人というのは、少ないと思うんです。子規は、その最大の一人じゃないか、と思いますね。

赤尾 それは僕も感じますよ。で、たまたま漢語との関係が出ましたが、子規が明治二十三年、二十三歳で文科大学国文学科に入学したときに、中国語について書いたものがあります。中国語は、平上去入の四声ありますね。で、子規は、「私はどっちかというと平声のほうが声が穏やかなり」、つまりすきだと書いています。ということから思うとね、中国語の四声のなかで平声を、若い彼が生理的に好んだというのは、これはやっぱり、日本的リアリズムに通じるんじゃないか、と思うんですよ。

司馬 おもしろいね。伊予方言は上方語圏に入るでしょう。上方語は平声ですね。関東、東北弁は四声の中で…？

赤尾 あれは上か入です。

司馬 入声が多いな。松山なんていうのは、僕が使っている上方弁よりもひどい平声やな。平声ではどうも非常に矯激な、ただけしい政治論ができないですな。

赤尾 青年子規が政治家志望を放棄したのにつながりますね。(笑)

司馬 あるいは、いまから池田屋に討ち入りするんだ、というような異常なことはできないんです。その、討ち入りしてもいいけれども、何人生き残って帰れるか、とかね、そういう議論になってしまうわけです。ということは、リアリズム…赤尾君が言うように物とか事とかをとらえやすい姿勢というか、すくなくともそういう心理的姿勢がつくり出しやすいわけよね。もっとも子規が、おれは平声だ、と言ったのは、何だかこう象徴的な言い方なんでしょう。

赤尾 そうです。中国語はややこしいと言っています。(笑) 子規は明治十八年、十八歳のときに、「空気を抽象して」という題で、「今日の宇宙にして空気なき時は空中は果たして何色を呈するや(但し太陽の光線を送る者は他にありて其者は無色透明と仮定して)」とも書いていますね。抽象ということについては、子規には、これぐらいのも

のしか、ちょっといま見つかりません。抽象という観念を捨てているんですね。

司馬 何て言うかなあ、実相観入という言葉ですかね。それから、近代に入ると心理とか、イデオロギーで、ものの本質を貫くような体系を、われわれは持つことができたけれども、実際は、その前に厳乎としたリアリズムを持った時期がなければ、ちょっと具合がわるいというものでしょう。いきなり真実のほうに行っては、じつに危うい。仮に事実と真実という言葉で、二つこう置くと、事実も千個並べても真実にはゆかない。だけど、千個並べないと、千個並べていくことによって、不意に真実が出てくるわけでしょう。これは、きわめて不意にだけど。

赤尾 そうです。不意に訪れる。

司馬 だけど、その事実のほうを、千個も並べることがごく可能なことなのに、めんどくさいから三つほど並べておいて、それで、いきなり真実をそこへぶち込んだって、爆発しますわね。そのことは、だから変な具合になる。

子規はその真実にまでゆくのは、自分の死後だれかがやればよいと思っていたのでしょう。それは清（虚子）さんがやれとか、これは秉五郎（碧梧桐）がやれとか、いうようなことがあって、彼らが学問（短詩型についての）をやってくれることにあれだけ執着したのはそれだと思います。子規のリアリズムはまことに平声で、友だちの家に上がったら、かまちの高さは何尺で板敷の材は杉であるとか、床の間に野の花が活けてある、と言わずに、露草が活けてある、と具体的にちゃんと言う。廊下を三十歩ゆくと、小座敷がある、その面積も書く、というような、子規の弟子たちが継承したリアリズムは、寸法リアリズムのみに矮小化したきらいはあるけれども、ともかく大変なものだと思います。

日本で、リアリズムというものを実際にやって、多分にその行者のようにやって行ったのはこのグループしかないでしょう。そんなのあるかしら、ほかに。敗戦後はずいぶん状況が変わりましたが、敗戦までの間、ほんとうのリアリズムの徒が多くいたかどうか。いなかったから、太平洋戦争みたいなものをやるわけでしょう。それから、昭和初年の左翼運動もぼしゃるわけでしょう。結局、リアリズムをきちっとしてないから、左翼もぼしゃるし、太平洋戦争もやる、ということになるわけでしょう。そして実際に、極端に言うと、いまでも子規的リアリズムがきちっと発展しなかったから——飛躍するんですけども——公害問題が起こるようなことになったりします。(笑)

(「日本語と日本人」対談集 司馬遼太郎著・中央公論社・1997年2月18日改版より)

作者の紹介



司馬遼太郎(しばりょうたろう)。1923年、大阪生まれ。作家。「梟の城」で昭和34年下期直木賞を受賞。著書に「竜馬がゆく」「坂の上の雲」「空海の風景」ほか多数。1993年、文化勲章受賞。1996年歿。

赤尾兜子(あかおとうし)。1925年、兵庫県生まれ。俳人。1962年、現代俳句協会賞を受賞。主な句集に「蛇」「歳華集」など、「赤尾兜子全句集」がある。1981年歿。

井上ひさし(いのうえひさし)。1934年山形県生まれ、作家。上智大学文学部仏文科卒。1971年「道元の冒険」で芸術選奨文部大臣新人賞、翌72年、同作品で第18回岸田戯曲賞、80年「しみじみ日本・乃木大将」「小林一茶」で紀伊國屋演劇賞、読売文学賞。翌81年「吉里吉里人」で日本SF大賞。84年劇団こまつ座を結成、座付作者となった。その他の主著作として「井上ひさし全芝居」(前5巻)。

学習手引き



1. 全文の意味を簡単にまとめてみましょう。
2. リアリズムについて簡単に話さない。
3. 文中の「明治っていうのは文化大革命です」ということばを、理解してみましょう。
4. 夏目漱石と泉鏡花の文章との区別を話してみましょう。
5. 第二次世界大戦の事を調べて話さない。

語句の解釈



1. 【ふたばていしめい二葉亭四迷】…小説家。本名は長谷川辰の助。江戸の生まれ。1887年(明治20年)「浮雲」を書き言文一致体と優れた心理描写とで新生面を開いた。ロシアの翻訳にも優れ、1908年ロシアに赴き、病を得て帰国の途中インド洋で没。(1864~1909)
2. 【まさおか しき正岡子規】…俳人・歌人。名は常規(つねおり)。松山市の人。日本新聞社に入り、俳諧を研究。雑誌「ホトトギス」に処って写生俳句・写生文を主

唱、また「歌よみに与える書」を発表して短歌革新を試み、新体詩・小説にも筆を染めた。その俳句を日本派、和歌を根岸派という。(1867～1902)

3. 【^{きたむらとうこく}北村透谷】…詩人・評論家。名は門太郎。小田原の生まれ。武士の子として厳格な躰を受けた。島崎藤村と雑誌「文学界」を創刊。近代ロマン主義の先駆者。自殺。(1868～1894)
4. 【ルポルタージュ】…報道。現地報告。第一次世界大戦後の唱えられた文学様式で、社会の出来事を報告者の作為を加えずにありのままに叙述するもの。日本には第二次世界大戦後、文学のジャンルとして登場、報告文学。
5. 【^{てお}手織り】…機械でなく、簡単な織機を用いて手で織ること。また自家で織ること。その織物。
6. 【^{いづみきょうか}泉鏡花】…小説家。名は鏡太郎。石川県の金沢生まれ。尾崎紅葉に師事。作「夜行」「高野聖」など。(1873～1939)
7. 【^{やまじあいざん}山路愛山】…ジャーナリスト・著作家。名は弥吉。江戸生まれ。幕臣の子。キリスト教徒。雑誌「独立評論」を刊行。信濃毎日新聞主筆。著「日本人民史」など。(1864～1917)
8. 【^{かいじゆう}晦渋】…言語・文章などが難しくて、意味の分かりにくいこと。
9. 【^{うよよくせつ}紆余曲折】…①まがりくねること。②事情がこみいつているいろいろの変化のあること。
10. 【ややこしい】…こみいつている。複雑でわずらわしい。
11. 【^{きょうげき}矯激】…言動が度はずれて過激なこと。
12. 【^{かわひがしごとう}河東碧梧桐】…俳人。愛知県松山市の生まれ。正岡子規の俳句革新運動を助け、その没後高浜虚子と俳壇の双璧。句誌「海紅」「碧」「三味」を創刊。(1873～1937)
13. 【^{たかはまきよし}高浜虚子】…俳人・小説家。本名は清。愛知県松山生まれ。子規に師事。「虚子俳話」など有名。(1874～1959)
14. 【たけだけしい】…①ひどく勇猛である。いかにも強い。②しぶとい。ずうずうしい。
15. 【^{とこ}床の^ま間】…床を一段高くし、正面の壁に書画の幅などを掛け。床板の上に置物花瓶などを飾るところ。近世以降の日本建築で、座敷に設ける。室町時代の押板が起源。

文型と文法の解説

1. ～における…①(時間、場所を表す)～にある。～においての。②～に関しての、～に対する。

例：○秀頼の周りの者は秀頼以外に天下の後継者はないと信じており、さらには朝廷における序列は秀頼のほうが秀忠より上であった。

○読書の精神におけるは食物の身体におけるがごとし。

○かれのこの分野における知識は怪しいものだ。

2. のに… (助詞) ある事柄から普通に予期されたこととは反対の事柄が起こったことを示すのに用いる。

例：○熱があるのに出かけた。

○その事実のほうを、千個も並べることがごく可能なことなのに、めんどくさいから三つほど並べておく。

○指の先に少し怪我をただけなのに、ずいぶん大げさに包帯している。

3. ～みたい…例を示す。不確かな判断を示す。また婉曲な言いまわしにも用いる。

例：○京都みたいな古い町がすきだ。

○いなかったから、太平洋戦争みたいなものをやるわけでしょう。

○玄関で音がしますから、誰か来たみたいだ。

4. ～きらいがある… (好ましくない) 傾向。懸念。

例：○行き過ぎのきらいがある。

○あの人は規則を無視するきらいがある。

○話を面白くするためだろうか、あの人は物事を大げさに言うきらいがある。

5. ～しか～ない…わずかにそれだけである意を表す。

例：○これしかできない。

○三人だけしか来ない。

○やって行っただけはこのグループしかないでしょう。

6. ～の一つ… (物を列挙する場合に) 一項。強調の働きをする用法。

例：○僕は子規の業績のひとつは散文だと思うんですけどね。

○一つにはこういう理由もあります。

○そういう文章を手作りで完成したところに、漱石の大きさの一つがあると思います。

7. なかなか～ない…事態が容易にしない。あることは簡単にはできない。

例：○かれはなかなか怒ったりはしません。

○なかなかうまくできないんで、仕方がなく、田中さんに教えてもらったんだ。

○なかなかうまくいけない。

8. ～なんか…①一つの例として示す。②望ましくないもの、価値の低いものとしてあげる。

例：○こちらの品なんかいかがですか。

○また片岡鉄兵さんなんか、新感覚派宣言も書いているでしょう。

○僕なんかには分らない。

9. ～わけだ…～という事になるはずだという気持ちを添える。

例：○リアリズムをきちっとしないから、左翼もぼしやるし、太平洋戦争もやるということになるわけだ。

○鉄兵さんの文章も泉鏡花と同じで万能の機能をもっていないわけだ。

○苦しいわけです、熱が四十度もあるのですから。

応用問題

1. 次の文の () に入るべきものを次の a・b・c・d から一つ選びなさい。

①日曜日はうちにいます、() 朝は部屋を掃除しなければならないから、午後來て下さい。

a だから

b すると

c ところで

d ただ

②駅に近いというのは魅力ですね。() 静かなら、なお結構です。

a しかし

b それでは

c そのうえ

d また

③あんな丈夫だった田中さんも徹夜し続けて、() 病気にかかってしまいました。

a ついに

b つい

c たしかに

d もう

④一週間秋田に行った。帰って来たら、東京は() 寒くなっているのが驚いた。

a まったく

b すっきり

c すっかり

d 全然

⑤子供の時人参がきらいでしたが、よく母に()。

a たべさせられた

b たべられた

c たべさせた

d たべてしまった

⑥電車がなかなか() 遅くなりました。

a 来ないで

b 来なくて

c 来ないと

d 来られなくて

⑦通路では禁煙になっております。おたばこは()。

a お気をつけてください

b ご禁止です

c ご遠慮ください

d お吸わないでください

⑧母はさんざん苦労した（ ）病気になった。

- a のすえ b あげくに c あげく d 結果

⑨そこに置いてある読み（ ）本を見て、遠いところへいっていないと思う。

- a かけた b おわった c おえた d 得た

⑩田中さんは始めは漢字を（ ）が、このごろは面白くなってきたようだ。

- a 嫌いだ b いやだ c 嫌がっていた d 嫌いだった

⑪一回ぐらい失敗しただけで、（ ）をつくばかりではいけない。

- a 溜息 b 胸 c 核心 d 虚

⑫何度も説明してもらったが（ ）要領を得ない。

- a ようやく b すっかり c さっぱり d とうてい

⑬収入が増える（ ）マイホームを購入する人がますますふえるでしょう。

- a にかけて b につれて c にともに d によって

⑭同じの内容でも言い方（ ）誤解を招くこともある。

- a によって b にとって c については d にあっては

⑮わたしはあと1年もたたない（ ）卒業します。今は就職が決まらずに落ち着いたかない毎日です。

- a うちに b うち c 間に d あいだ

2. 次の語句を使って文を作りなさい。

①～と遜色がない

②～しやすい

③～については

④～に固執する

3. 文中最後の段落を中国語に訳しなさい。

4. 次の文を日本語に訳しなさい。

①我认为子規的业绩之一就是在散文方面。

②青年子規放弃了做政治家的抱负。

③本想周末去爬富士山，可是不巧的是听说台风要来了。

④关于这个问题我想听一听您的意见。

⑤像苹果啦，蜜橘之类的水果在哪里有卖的？

5. 作文の練習 (500字前後)

「明日にはばたこう」という題で作文してみましょう。

6. 演習発表

①公害問題について話してみましょう。

②わたしの志望について話してみなさい。



課外読み物

「いい」と「よい」はどちらでもいいのか

いのうえ
井上ひさし

「いい女」「いい天気」「いいタイミング」などの「いい」が、たとえば、NHKの放送では「よい」と発声されることが多いのに気づきました。調べると、たしかに「よい」が正しいようですが、しかし、当代一流の著作者の文章には「いい」がたくさん出てきます。「いい」と「よい」と、どちらが正しいのでしょうか。

どちらも正しい。そこで、二本立てで使いこなして行くのがよろしい。これが答えです。もちろん、「よい」には改まった感じがあり、文章語らしい匂いもある。これに対して「いい」にはくだけた感じがあり、口語っぽいところがある。この微妙な違いを使い分けることは大切ですが、ひとまず、どちらも正しいと心を据えるのが肝腎です。

漱石の「坊っちゃん」では、主人公を敬愛する女中のお清さんが、いつもこう言います。

「あなたは真っ直ぐでよい御気性だ」

そのお清さんも自分のことになると、

「たとい下女奉公はしても年来住み馴れた家の方がいい」

「いい」を使っています。ついでながら、この痛快な小説の主人公はどんなときも、「いい」で押し通しています。「よい」は決して使わない。この小説は江戸弁の口語体で書かれていますから、主人公の口調に「よい」が入り込む隙がないのです。そういう次第で、NHKは、視聴者をご主人様とあがめているのかもしれませんが、NHKはお清さんの立場にまでへりくだっているのです。

もっとも、同じ漱石の「草枕」では、禅寺の偉そうな和尚さんが「よい」を連発しています。ひょっとすると、NHKは、へりくだりながら、じつは偉そうにものを言っていると考えられないこともない。このへんはじつに微妙です。とにかく「よい」には他人行儀なところがあります。

「いい」が口語的だという証拠をもう一つ挙げると、二十数年前に、若い人たちに流行った「いいじゃん」、あれは「よいじゃん」でもよさそうなのに「いい」の方に付きました。「じゃん」が、どっちがより口語的かをちゃんと嗅ぎ分けたのだと思います。

統計をとると、圧倒的に「いい」が多いのはたしかです。そこで「いい」に統一してしまった方がよさそうなのですが、そうも行きません。「よい」の方が素性が正しくて、<よかろう・よかった・よくて・よければ>と、形容詞としての活用形を持っているのに、「いい」にはそれがない。「よい」は文語の「よし」に繋がりを持っているが、

「いい」は孤立無援、あくまでも「『よい』の変異形」(和田利政)にすぎません。

複合語ができるときも、「履きよい」「住みよい」「書きよい」といった具合に、索性正しい「よい」の方に付きやすいようです。「恰好いい」などは「いい」に付いているではないか、と反論なさる方もおいでだろうと思いますが、これは「恰好がよい」が、口語化したのではないのでしょうか。つまり「いい」はたいてい「よい」に復古できるのです。なかには「いい人」「いい仲」のように復旧できないものもありますが、「よい」と「いい」を一緒くたにするとまずい場合もありますね。奥さんが「お風呂、よい加減ですよ」と言う。愛情が感じられます。「お風呂、いい加減ですよ」では、家庭崩壊の日は近い。そんなわけで二本立てで行くしかないのです。

なお、「いい」は、「よい」が江戸風に訛ったもので、その江戸訛りが江戸期に全国に広まったというのが、国語学者たちの一致した見解です。

(「井上ひさしの日本語相談」井上ひさし著・朝日新聞社・1996年5月10日より)



設問

1. 「いい」と「よい」の区別について、例を挙げて話さない。
2. 作者の井上ひさしについて、簡単に述べてみましょう。